

この本を読んでくれるみなさんへ

福井ゆり子

この本におさめられているのは、今から百年くらい前の中国の作家である葉聖陶先生が書いた童話です。これらの作品が書かれたころ、子どもたちのために書かれた童話はほとんどなく、中国で初めて出版された童話集がこの本でした。

だから、この本に入っているお話はとても古いし、中国のお話なので、日本にいるみんなの今の生活とは、かなりちがうと思います。お話の中に今ではもうほとんど使われなくなった人力車とか、日本にはないマントウという食べ物、胡弓という楽器なんかが出てきます。なんだろう、これ？とちょっと困ってしまうかもしれません。でも、田んぼや畑、太陽やお月さま、郵便配達員、スズメやリスなどのおなじみのものもたくさん出てきます。だから遠い昔の、自分とはあまり関係のないお話とは思わないでください。わたしたちの使ういくつかの品物は現れては消えていきますが、人の暮らしの基本的なところは実際には大きく変わるものではありません。そして、わたしたちの考えることや、感じることもそう大きく変化するものではないのです。

この本のタイトルにもなっている「かかし」というお話を見てみましょう。「かかし」は今では見かけることが少なくなりましたが、日本でもかつてはよく田畑に立っていたものです。このお話に出てくる善良な「かかし」

は、田んぼの中に立ちつづけ、真夜中にくり広げられるさまざまに悲しいできごとを目撃します。でも、「かかし」はまったく動けないので、ただ見ていることしかできず、悲しみ、あせりますが、何も変えることができません。この気持ちはきつとみなさんにもよく分かると思います。

この時代の中国は、国内にさまざまな勢力が分立し、一つにまとまった強い国ではなかったために、力の強い外国に自分たちの土地を奪われていました。そこに暮らす人たちは、貧しく、苦しい生活を送っていましたが、自分たちの力でこころした現実を変えることはとても難しいことでした。人々の悲しみやあせりは、この「かかし」と同じだったにちがいありません。そしてまた、その中国を苦しめていた国の一つが日本でした。みなさんがこの「かかし」を読むとき、このことを忘れないでいてほしいと思います。